# 瀬戸市下品野遺跡
# 発掘調査 WEB 報告資料

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

## １．下品野遺跡の発掘調査について

下品野遺跡は、品野町六丁目交差点付近にある遺跡で、今回の発掘調査は、国道 248 号と県道 22 号瀬戸環状線が交差する品野町六丁目交差点に関わる主要地方道瀬戸環状線交差点改良工事事業にともなう遺跡の調査で、令和３年の５月から９月にかけて行いました。

## ２．発見できた遺構と出土遺物

今回の調査により確認された遺構と出土遺物は主に飛鳥時代（約 1,400 年前）～奈良時代（約 1,300 年前）、平安時代（約 1,200 年前）～鎌倉時代（約 700 年前）、戦国時代（約 500 年前～約 400 年前）、江戸時代後期（約 200 年前）～昭和時代（約 50 年前）の主に４時期のものがあります。

○飛鳥時代～奈良時代：溝（みぞ）1 条、竪穴状土坑（たてあなじょうどこう）１基、土坑（どこう）４基が見つかり、須恵器（すえき）の杯（つき）と壺（つぼ）、甕（かめ）などと土師器（はじき）の甕、製塩土器（せいえんどき）の脚部などが出土しました。

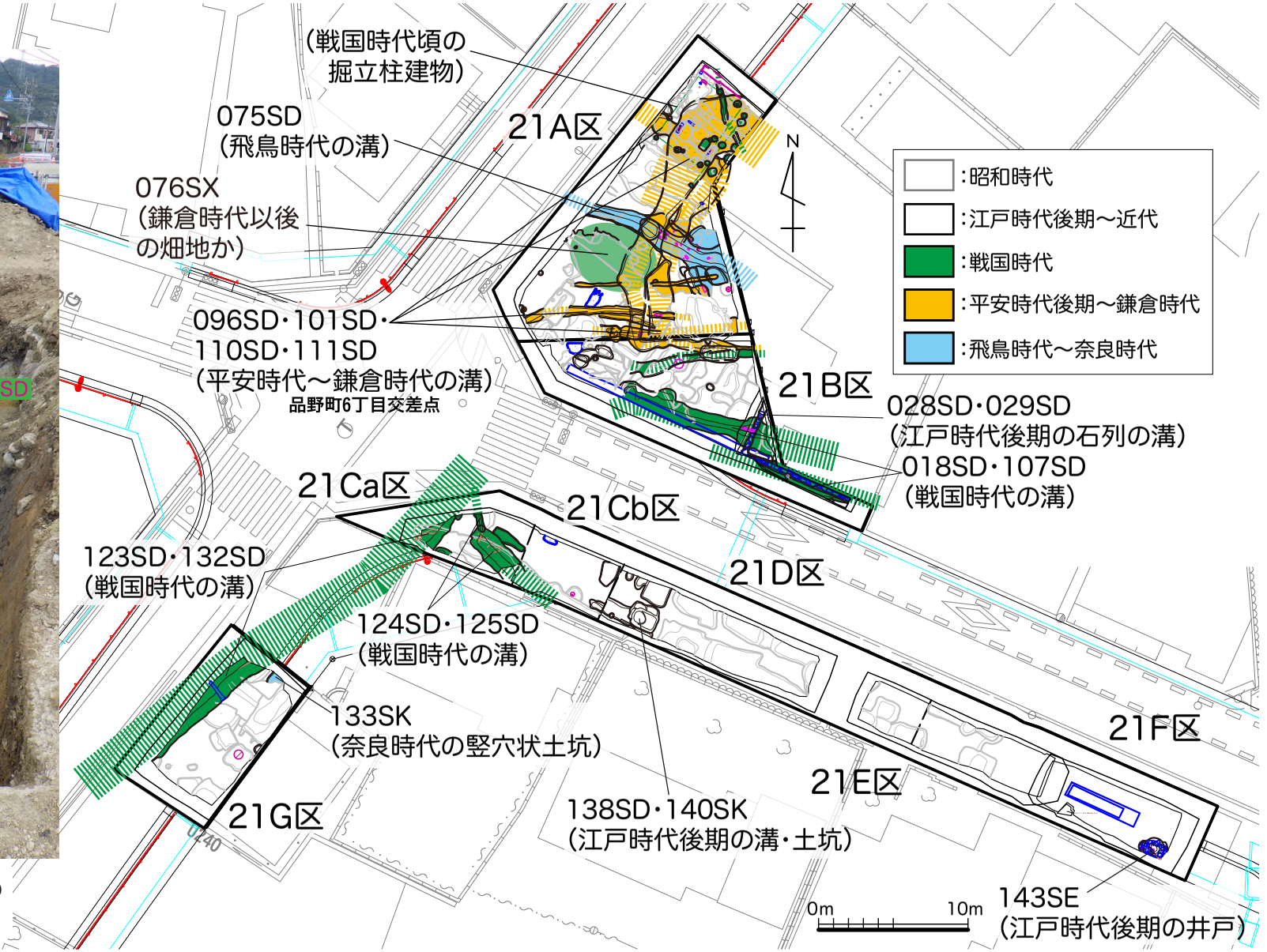
○平安時代～鎌倉時代：溝７条、土坑２基が見つかり、平安時代の灰釉陶器の椀（わん）と皿（さら）、鎌倉時代の山茶碗（やまぢゃわん）などが出土しました。

○戦国時代：溝６条、掘立柱建物（ほったてはしらたてもの）１棟、土坑２基が見つかり、天目茶碗（てんもくちゃわん）、皿（さら）、擂鉢（すりばち）などが出土しました。

○江戸時代後期～昭和時代：家の基礎と思われる石列２条、溝１条、井戸１基、数多くのゴミ捨て穴が見つかりました。江戸時代以後のいろいろな椀、皿、徳利（とっくり）、擂鉢、焙烙鍋（ほうろくなべ）などが出土しました。

下品野遺跡発掘調査現場の位置

戦国時代の屋敷を囲む溝 123SD ～ 125SD
(21Ca 区)、西より




下品野遺跡（縮尺：400 分の 1）

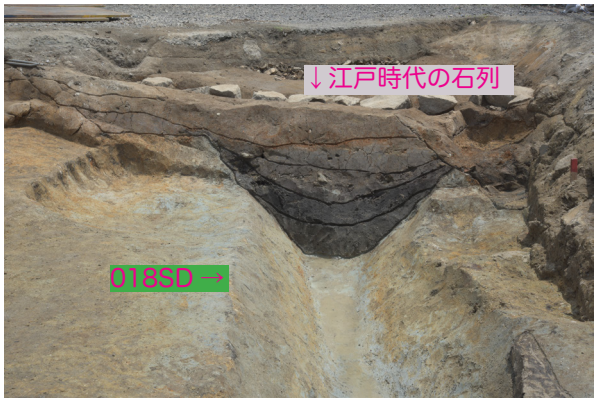
交差点北側（21A 区）全景、南上空より

平安時代の灰釉陶器の皿出土状況（096SD）、南より

平安時代～鎌倉時代の溝 096SD・101SD、東より

奈良時代の溝 075SD、東より

２１Ｂ区（県道 22 号線側）全体、東より

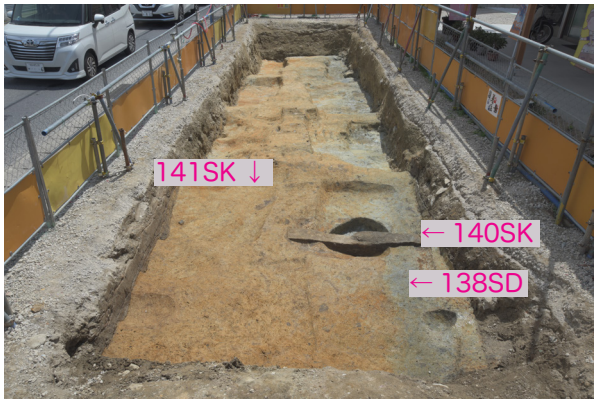


戦国時代の屋敷を囲む溝 018SD（21B 区）、西より

戦国時代の屋敷を囲む溝 107SD（21B 区）、西より

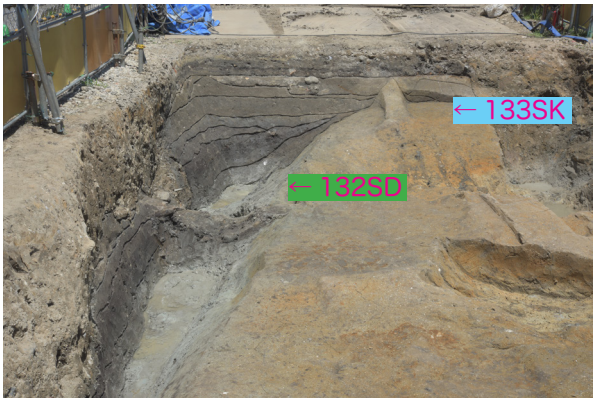
鎌倉時代～戦国時代の溝 020SD・025SD
（21B 区）、西より

江戸時代後期の石列の溝 028SD・029SD
（21B 区）、西より




江戸時代後期の溝 138SD、土坑 141SK
（21D 区）、西より

21Cb 区全景、写真右側に昭和時代の石組み溝、
西より




戦国時代の溝 132SD と
奈良時代の竪穴状土坑 133SK（21G 区）、南より

江戸時代後期の井戸 143SE（21F 区）、北より

## 3．まとめ

奈良時代において、品野町六丁目交差点（以下「交差点」）の北側（21A 区）では、東西方向の溝（075SD）が形成され、溝が埋まった後に土坑（087SK・089SK・112SK）が形成されていました。品野町六丁目交差点南側（21G 区）においても、竪穴住居の可能性のある竪穴状土坑（133SK）も見つかり、周囲に集落が広がっていたものと思われます。

平安時代～鎌倉時代の溝も同様な方向で流れていますが、交差点北側（21A 区・21B 区）で確認できた 020SD・111SD は南北 20m 程の区画を囲む西側部分にあたり、110SD は南北 20m 程の区画を囲む東側部分に当たります。周囲に溝に囲まれた屋敷地などが展開していたものと思われます。

戦国時代では、交差点北側（21B 区）の 018SD、交差点南側（21Ca 区）の 123SD は、幅が 2m を超える断面「V」字型をしており、この二つの溝が同一時期の溝とすると、溝の断面の形状から屋敷（やしき）を囲む溝と考えられます。またこの溝の内側にも 107SD（21B 区）や 124SD・125SD（21Ca 区）が見つかっており、時期の異なるものやさらに屋敷の内側を区画する溝になるものと考えられます。

発掘調査の期間中は近隣沿線住民の皆様と関係機関の皆様には、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。